

### 3 基本目標

基本目標は、幸手の環境像に近づくための分野ごとの目標像を表し、各分野の取組を束ねるものです。計画初年度から20年後を目標年度としています。

#### (1) 健康・安全分野

健康・安全分野では、人々の生活や生態系の健全な営みに欠かせない、大気、水（池・水路・河川）、土壌・地下水、地盤、騒音・振動・悪臭、化学物質の問題を扱います。

##### 主な課題

市域には工場や幹線道路が多くあるほか、自動車が日常的な交通手段となっていますが、健康被害に至るような深刻な公害問題は見られません。しかし意識調査の結果から考えると、市民が安心できているとはいえない状況にあります。

大気の観測では、浮遊粒子状物質や光化学オキシダントが環境基準を達成していません。これは関東平野やその周辺域にまで及ぶ広域的な現象で、自動車や工場などからの排気が主な排出源となっています。

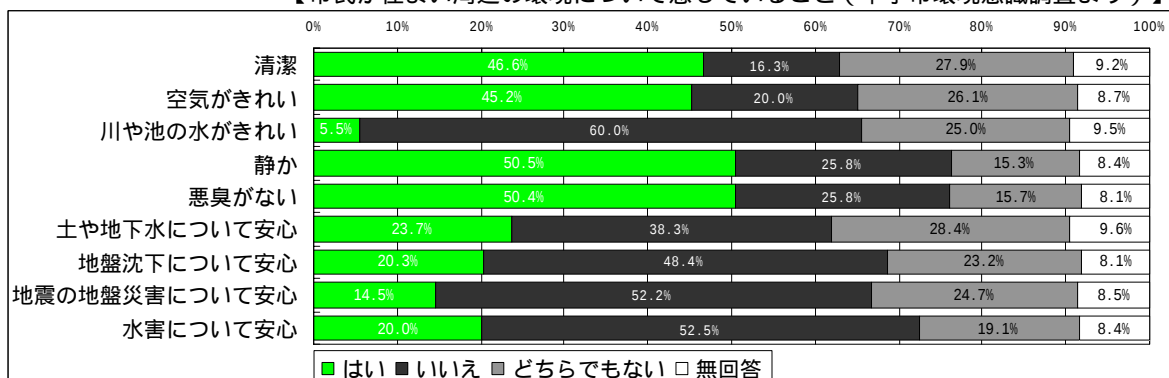
市域の小河川や水路では、市独自の観測や意識調査などから、汚濁が進んでいるといえます。公共用水域の水質の観測では、大腸菌群数の環境基準が達成されていません。下水道や合併処理浄化槽の普及が進んでいないことや、農業地の混住化により農業用排水路に多量の生活排水が流入していることが汚濁の主な要因です。

騒音・振動・悪臭に関して、年間10件前後の苦情が寄せられています。また、国道4号付近の道路騒音が環境基準を達成していません。

地盤については、埼玉県北東部の低地では長期にわたって地盤沈下が生じており、市域でも同様の傾向が見られます。また、昔から水害に悩まされてきたところですが、近年は内水氾濫が問題となっています。

化学物質などについては、ダイオキシンなどの被害はないものの、身近に多くの化学物質が存在することや情報や知識が十分でないことなどが、市民の不安につながっています。

【市民が住まい周辺の環境について感じていること（幸手市環境意識調査より）】



##### 基本目標

上記の課題を踏まえ、健康・安全分野の基本目標を以下のように定めます。

健康な生活と健全な生態系が育まれる環境

## (2) 資源・エネルギー分野

資源・エネルギー分野では、地球環境問題やごみ問題などの根本にある、廃棄物処理、水資源利用、資源（物）利用、エネルギー利用を扱います。

### 主な課題

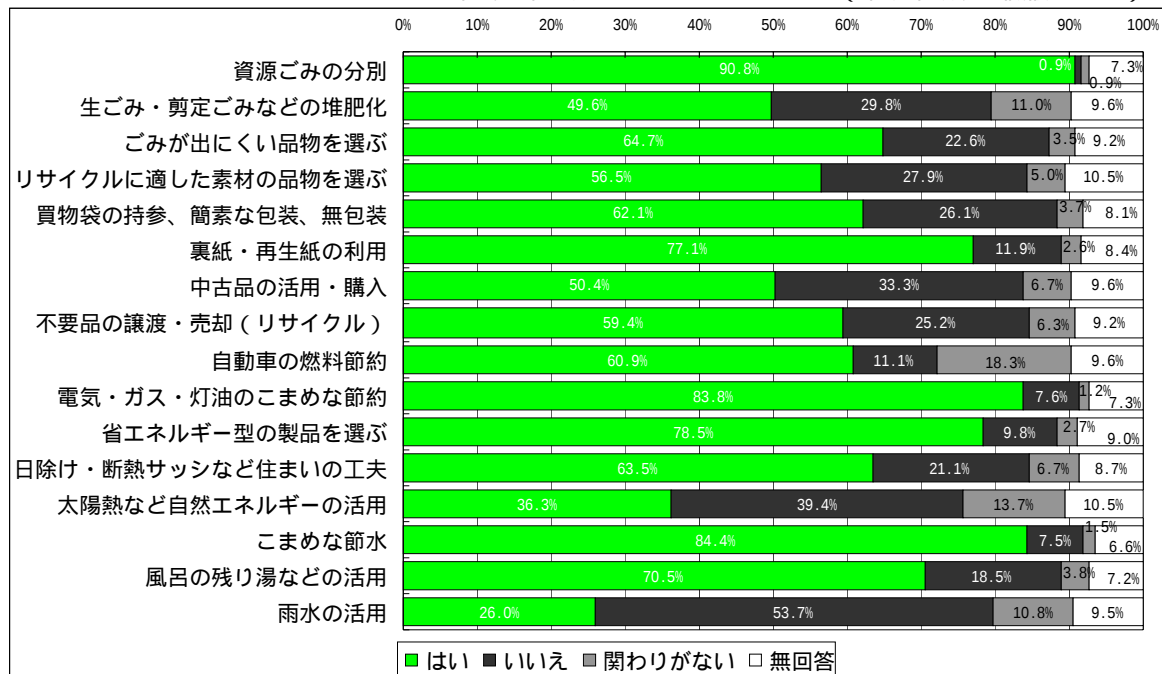
資源・エネルギーの大量消費・大量廃棄は全国的・国際的な現象であり、地球環境問題の根源であるとともに、地域的な課題でもあります。日々様々な立場から生産活動・消費行動に関わっている市民一人ひとりの意識改革に加えて、幸手の特性・地域性に即した方法での取組も大切です。

廃棄物については、生活系のごみ収集量（重量）は、燃やせるごみ・燃やせないごみ・粗大ごみがいずれも減少した反面、資源ごみは増え、処理の総量は増える傾向にあります。散乱や不法投棄も身近な問題となっており、意識調査にもそのことが表れています。

水資源については、市域が依存する利根川水系の湧水が、夏季のみならず冬季でも問題となっています。同水系では首都圏の水需要のほか、流域の農業や発電にも大量の水を供給しています。

循環型社会に向けた法制度が整い、市政でも資源ごみの収集やグリーン購入などを行っていますが、地域全体で取組を発展させていく必要があります。エネルギー消費は日本でも埼玉県内でも、産業部門が横ばい傾向であるのに対して、民生・運輸部門が大きく増える傾向にあります。意識調査には、循環型社会への関心の高さが表れています。

【市民が取り組めると感じていること（幸手市環境意識調査より）】



### 基本目標

上記の課題を踏まえ、資源・エネルギー分野の基本目標を以下のように定めます。

大量消費・大量廃棄がもたらす問題について、  
一人ひとりがしっかり考えて行動する循環型社会

### (3) 自然・文化分野

自然・文化分野では、人々と水・緑・歴史とのふれあい、農林地・水辺が担う環境保全の働き（生態系形成、水質浄化、表土保全、雨水貯留など）、道路・建物などがつくる街並みを扱います。

#### 主な課題

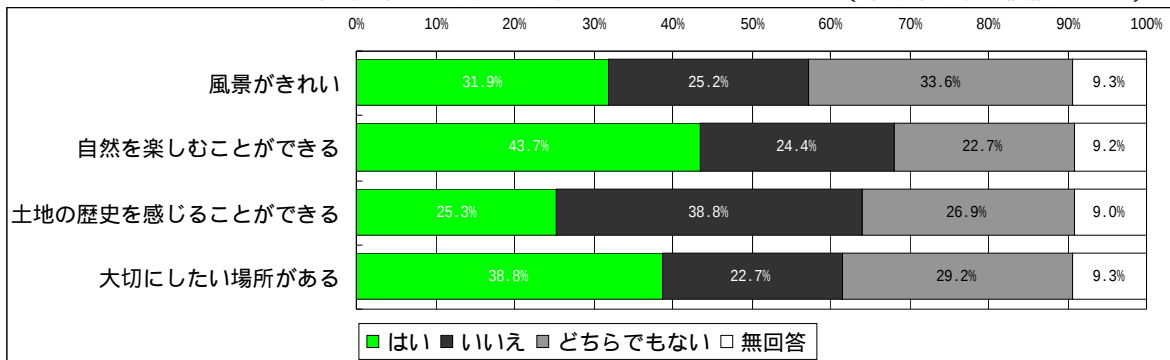
幸手の水や緑は、歴史の中で農作・治水・利水・居住などに伴って改変されながら、地域の環境保全の働きも担ってきました。暮らしと水・緑との関わりも深く、幸手の自然は歴史・文化やまちづくりの一面ともいえます。都市化が進んだ今日では、改めて自然との接点が求められていることや、高齢化が進んでいることなどから、自然・文化の特性を活かし、歴史・自然・人への優しさを考慮した、環境保全・まちづくりが大切です。

水・緑とのふれあいは、昭和の頃までは田畑の近くや水辺で遊ぶ子どもの姿が珍しくないなど豊かにありましたが、今はそのような場所も文化も減りつつあります。市域の6割以上を緑が占めているものの、そのほとんどが整備された農地であり、社会の変化に伴い旧来の田園風景の維持は困難な状況にあります。また、歴史や愛着を感じる場所、日常的に利用できる身近な遊び場、歩行者や自転車のための空間、中心市街の緑などは十分ではありません。

農林地や河川・水路・池は、野生生物が多く見られる場ですが昔に比べて生物は少なくなりました。また生態系保全のほかにも、公益性の大きい防災・保健休養などの役割を果たしており、内水氾濫や住環境の悪化をはじめとして、これらが失われることから生じる損失への対策には、多大な費用を要することも想定されます。

街並みについては、物の豊かさや高齢化を背景として、生活や歩行の視点に立った整備、交通の円滑化、身近な公園の整備、景観対策などが重要となっています。これまでの都市化や車社会化と生活との調和が求められているともいえます。

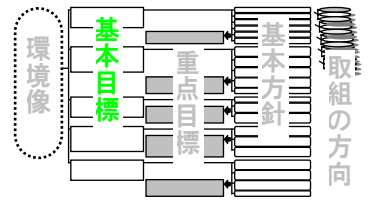
【市民が住まい周辺の環境について感じていること（幸手市環境意識調査より）】



#### 基本目標

上記の課題を踏まえ、自然・文化分野の基本目標を以下のように定めます。

歴史・自然・人への優しさを大切にし、  
共生する心を育てる美しいまち



#### (4) 学習・交流分野

学習・交流分野では、環境への意識・知識や連帯などに関わることとして、学校教育、生涯教育、コミュニティを扱います。

##### 主な課題

環境には、様々な立場からの主体的な取組と、取組の長期継続が必要であることから、一人ひとりの意識・知識が高まることや、将来を担う子どもたちへの教育が大切です。

また昔は、村・学校・職場などのコミュニティが様々な面で環境づくり・まちづくりの役割を担っていました。地域の環境問題を解決していくためには、一人ひとりが、自分の住んでいる地域社会（幸手市・まち・あるいはその一部）の問題解決に関わる大切が必要です。

学校教育・幼児教育では、各団体や教員の自主性による部分が大きいことをふまえて、指導力の向上やプログラムの充実が望まれます。そのためには、学外・園外との協力・連携、学外・園外の人材やプログラム、施設、教材の活用なども必要です。

生涯教育・社会教育においては、参加・交流と自主的な取組の広がりに向けて、産業から一人ひとりの暮らしにいたるまで様々なことについて、市民が興味をもって学べるような取組が重要です。

コミュニティについては、農家と都市住民、事業者と市民、専門家と非専門家といったような異なる立場の間で意識や知識の違いがみられることから、互いに交流と理解を深めて連携を図っていくことが重要です。

##### 基本目標

上記の課題を踏まえ、学習・交流分野の基本目標を以下のように定めます。

一人ひとりが環境について学び、  
地域社会人（地域社会を担う人々）の和が広がる社会

#### (5) 体制分野

体制分野では、環境への取組を進めるための仕組みなどに関して、環境行政への市民参画、市民・事業者・行政の協働\*、情報の共有、意識の向上、各種団体・事業体の取組の活性化、広域的な行政の連携を扱います。

##### 主な課題

環境は人々の活動の全てに関わる幅広い課題であるため、行政や事業者の対策だけではなく、市民の様々な立場からの主体的な取組と、三者の協働\*が大切です。

##### 基本目標

上記の課題を踏まえ、体制分野の取組を束ねる基本目標を以下のように定めます。

市民・事業者・行政の協働により、  
幸手の環境づくりを推し進める体制